令和４年度　まちの保健室委員会　活動報告

■委員名	委 員 長：西原勝彦 副委員長：瀧野都 委　　員：石原美智子・内藤啓子・高田ゆかり・総毛薫・野田保代・藤田ともみ 武縄幸子・中前日里・森優子・大迫しのぶ・中野奈保子
■開催回数	８回
■活動目標	１．県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 ２．地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸を図る。 ３．社会状況に応じた、新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。
■活動内容	１．県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 １）「まちの保健室」の活動は、コロナ禍の影響で、一時休止となったが、活動が増加。 実績：拠点活動129件（昨年46件）とコロナ前の20％（昨年10％） 活動ボランティア205名（昨年61名）、来所者1,268名（昨年376名）、 ５支部（昨年４支部） 出前隊93回（昨年70回）、来所者1,905名（昨年1,024名）、協会内11名、 電話相談26件（12件） ２）委員の「まちの保健室体験」を令和４年11月25日　協会会館にて実施し、併せてボランティアのための活動イメージアップ用動画を作成した。 動画は各支部に配布 ２．地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸を図る。 １）自施設内での「まちの保健室」やオンラインでの子育て支援等工夫を行った。 ２）図書館や教会での新規拠点活動や、訪問看護ステーションや介護施設の看護職による新規出前隊活動があった。 ３．まちの保健室研修会の開催 テーマ：「まちの保健室看護ボランティアのメンタルヘルス」 開催日：令和５年２月18日 講　演：相談員のメンタルヘルス～より良い相談活動につなげるために～ 講　師：津村　薫　氏 参加者：25名（録画視聴17名）
■活動の評価	コロナの第７波の影響で一部休止がある中、昨年より活動が増加している。 コロナ禍では、医療機関勤務の看護職ボランティアの活動に制限があるが、再開拠点での活動報告からは、リピーター参加者の期待がうかがえる。
■今後の課題	活動拠点の見直し整理と活動再開に向けた支援と情報共有 医療機関勤務以外の看護職ボランティアの確保